

総務文教委員会 県外行政視察レポート

委員長 沢野 修
副委員長 西川 洋吉

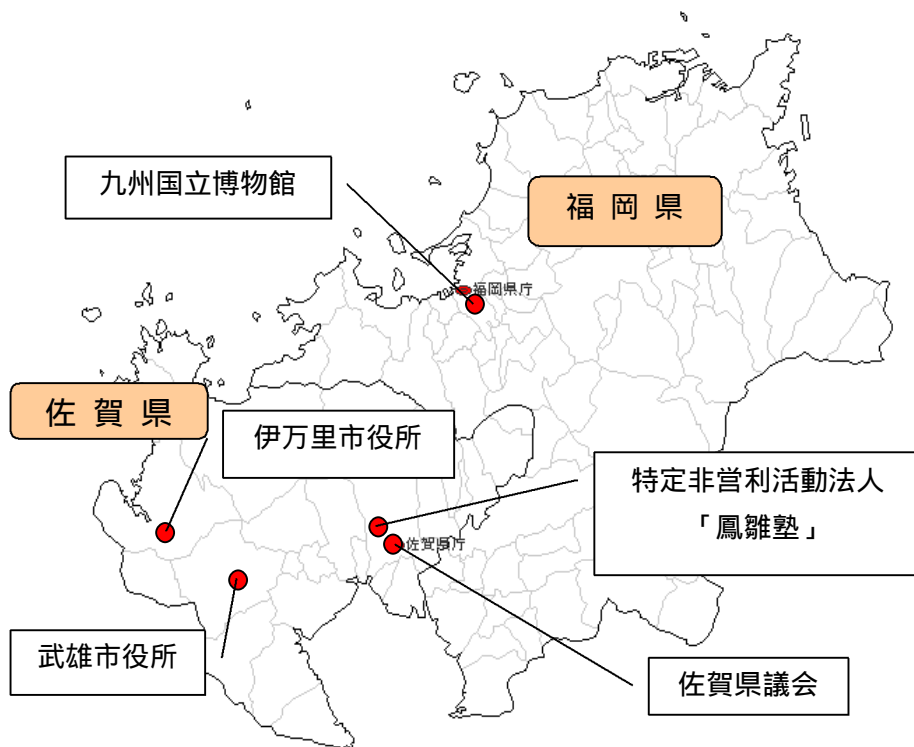
このたび、総務文教委員会は佐賀県及び福岡県を訪問した。佐賀県においては、少年期からのキャリア教育に取り組む特定非営利活動法人「鳳雛塾（ほうすうじゅく）」、伝統工芸（窯元）を生かした地域活性化に取り組む伊万里市、ベストセラー小説「佐賀のがばいばあちゃん」の映画口ケ誘致による街おこしとその後の地域活性化に取り組む武雄市、本部制を導入した組織改革や県業務の民間協働化テストの実施に取り組む佐賀県で、その内容や効果について聴取及び現地視察等を行った。福岡県においては、地元の誘致活動が実り全国で4番目の国立博物館として設立された九州国立博物館を訪問し、学校教育との連携事業の実施状況についての聴取及び施設視察による行政視察を行ってきたところであり、その概要をレポートする。

1 日程及び視察先

日程	視察先
平成20年2月6日(水)	特定非営利活動法人「鳳雛（ほうすう）塾」（佐賀県佐賀市）
平成20年2月7日(木)	伊万里市役所（佐賀県伊万里市） 武雄市役所（佐賀県武雄市）
平成20年2月8日(金)	佐賀県議会（佐賀県佐賀市） 九州国立博物館（福岡県太宰府市）

2 参加委員

沢野 修
西川 洋吉
小林 一大
榆井 辰雄
村松 二郎
長津 光三郎
進 直一郎
内山 五郎
若月 仁
長谷川 きよ



3 視察先の概要

特定非営利活動法人「鳳雛（ほうすう）塾」

視察テーマ： 少年期からのキャリア教育事業について
起業家育成に向けた教育への取組について

1 概要

特定非営利活動法人（NPO法人）「鳳雛塾」は、平成7年に佐賀県・佐賀大学・佐賀銀行の各代表の意見交換の中から起こったベンチャー起業支援の話がきっかけとなり、3者が資金を捻出し寄付講座を開設したことに始まる。

当初は大学生向けであったが、産業界など一般向けの勉強会として鳳雛塾の前身である平成弘道館を開講。県からの寄付を受けるためにSAGAベンチャービジネス協議会を設立。事務局を佐賀銀行が引き受けることとなり、同行行員が事務局職員として出向している。

小・中・高生に対する起業家教育の視点で、自ら“考え、学び、行動する”ことを通じ得られる、自主的な「生きる力」、「人とつながる力」の育成を掲げ、活発な活動を行っている。

職業教育を行う場合に、課題となるのは協力企業の確保であるが、当該法人では協力企業を300社開拓していることで、様々なカリキュラムを実施できる環境を実現している。

2 今後の課題

これまで、鳳雛塾のキャリア教育は教育委員会と連携し、総合学習に組み込んで実施してきたが、総合学習の見直しが検討される中、今後の時数確保懸念が生じていること、また、従来からの課題である資金確保の面が今後の課題となっている。

現鳳雛塾横尾事務局長は、佐賀銀行員時代にこの事業を立ち上げ、引き続き出向して携わっている非常に意欲的な人物であり、銀行員時代に培った人脈の活用など、事業実施に当たる中心人物の存在の重要性を改めて認識した。

3 主な質疑事項

（小学校5年生のキッズマーケット風景）

NPO法人の会員数と財務内訳について

事務局長給与費を負担している出向元の佐賀銀行の支援目的について

学校におけるキャリア教育の位置付けについて

小学校における総合学習の時間数が減る中でのこれからの展開について

社会に出てからの挫折に耐えうるトレーニングとしての視点について



伊万里市役所（伊万里市大川内山地区）

視察テーマ：伝統工芸（窯元）を生かした地域活性化の取組について

1 概要

行政、地元経済団体、産地組合等が一体となり、産地が抱える問題・課題に対する解決策等を検討し、伊万里・有田焼地域再生計画を策定。厚生労働省の「地域提案型雇用創造促進支援事業（パッケージ事業）」の適用を受ける。

取組の結果、観光客数が大幅に増加

2 窯業と観光と文化を組み合わせた地域資源の創設

窯元としての知名度と窯業技術を生かした商業の町として、個性的で質の高い観光と文化を構築するとともに、国際陶磁文化都市を目指している。

現在も大川内山地区には約30軒の窯元が集積しており、ほとんどが家内工業的な窯元であるため窯業不振の影響は少なく、ここ10年の窯元数は31程度で推移しているとのことである。

就労規模に比べこの「大川内山地区」関係の観光客数が60万人に達していることは驚きである。大川内山地区は窯元めぐりを楽めるように街並みが整備されており、それぞれの窯元が営む店では作品の説明とともに、この地区の歴史、有り様などを落ち着いた語り口で説明して

おり、画一的な観光地ではなく、地域の伝統工芸の美術・学術的価値を観光資源とした地域おこしに触れることができた。



窯元のみを整備するのではなく、一般県道をはじめ、地区内にある橋の欄干も全面に伊万里焼を貼り付けて芸術的に仕上げているなど、地域全体に。芸術性を持たせ、訪れる人の関心を高めている。

3 主な質疑事項

- 窯元数の増減状況について
- 外部からの新たな就業者の状況について
- 会派を超えた相互研究の実施状況について
- 近隣市町村における同種の国史跡の登録状況について

武雄市役所

視察テーマ： 「佐賀のがばいばあちゃんプロジェクト」による街おこしの取組について
ロケ地等のその後の活用策について

1 概要

ベストセラー小説となった島田洋七氏の「佐賀のがばいばあちゃん」の映画・テレビドラマのロケを市民総意で武雄市に誘致。

当時全国最年少市長であった樋渡啓祐市長が先頭に立ちロケ地誘致活動を行い誘致に成功。誘致決定後、市役所に「がばいばあちゃん課」を設置。ロケ地などを活用した観光振興による街おこしに取り組んでいる。

2 ロケ地等のその後の活用

メインロケ地となった淀姫神社内の「がばいばあちゃんの家」など、主要なロケ地を保存しており、週末には、多いときには50台ほどの観光バスが訪れているとのことである。また、市内の武雄温泉では週末に地場産の野菜などの朝市を開催し、これだけの人数がもたらす直接的な経済効果も大きいとのことである。なお、この朝市の開催も樋渡市長が陣頭指揮に立ち、初回は客数20名程度であったものが、口コミ評判などにより、現在は1000名近い客数まで拡大し、市民の所得に還元効果が出ているとのことであった。



メインロケ地となった淀姫神社内「ばあちゃんの家」



朝市が開催される武雄温泉のシンボル、楼門前

3 取組における強力なリーダーシップ

武雄市では、「佐賀のがばいばあちゃんプロジェクト」の他に、観光物産館の黒字化(達成済!)、付加価値の高い新たな特産物としてのレモンガラス栽培や、九州新幹線長崎ルートにおける武雄駅停車と新武雄駅新築の取組、大分県などと連携した温泉活用による新たな観光ルート創設など様々な取組を行っている。

いずれの取組においても、中心人物として樋渡市長が積極的に活動している。

同氏は地元の武雄高校出身で総務省勤務を経て2006年に当時全国最年少で市長に就任。積極的なトップセールス活動を行うため、副市長制を導入し従来の市長決裁権限の中から多くを副市長に移譲し、自身は中央省庁、他自治体、業界関係者などとの折衝に要する活動を増やし、職員及び市民の先頭に立って事業展開を行っている。

4 主な質疑項目

- 誘致活動実施に当たってポイントとした視点について
- 物産館運営におけるキーマンの必要性について

佐賀県議会

視察テーマ： 組織改革における本部制の導入について
県事業の協働化テストの実施状況について

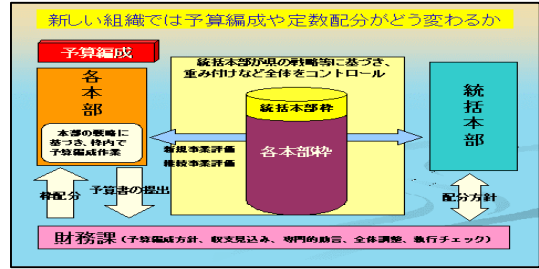
組織改革における本部制の導入について

1 概要

平成 16 年 4 月から県の組織の抜本的改革を実施。民間企業の組織を参考に、従来の部局制に変えて本部制の組織体系を導入。予算や定数についても各本部に与えられた枠の中において、各本部の判断で予算編成や人事異動を行う権限を付与した。（平成 19 年度：6 本部 2 局制）

2 主な質疑項目

- 職員意識の変革に向けた取組状況について
- 県組織におけるワンストップサービスの必要度について
- 予算編成権、人事権の各本部への移譲によるメリット・デメリットについて



県事業の協働化テストの実施状況

1 概要

一般会計と特別会計を対象に（企業会計は除く）、警察・教育・行政委員会の事業以外は、全ての事業を対象に、事業内容を公開、民間の提案を受けて行政サービスの新たな担い手を模索。県による自己点検結果を踏まえ、全事業内容をホームページ上で公開し民間提案を受付協働化テストの目的は、県民満足度の向上を図ることが第一義であり、一時的にコストが上昇することはやむを得ないとのスタンスで取り組んでいる。

2 主な質疑項目

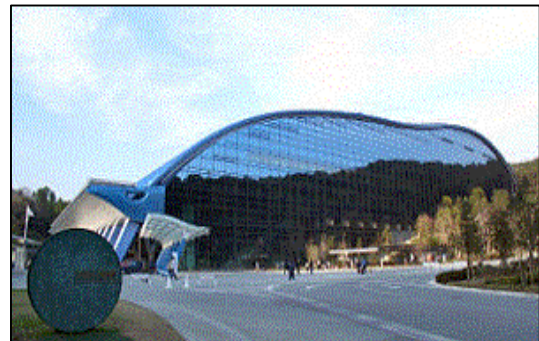
- 職員組合からの反対の有無について
- 協働化によるコスト軽減の状況について
- 県外事業者の担い手増加懸念について
- 業務内容説明会への参加状況について

九州国立博物館（財団法人九州国立博物館）

視察テーマ： 施設・事業概要について
学校教育との連携事業の実施状況について

1 概要

九州国立博物館は東京、奈良、京都に加えて、4 番目の国立博物館として 2005 年 10 月に開館。美術系博物館をコンセプトとする他の 3 国立博物館に対し、歴史系博物館としてアジア史の観点から日本文化の形成を捉えることをコンセプトとしている。



国立博物館の新設は、1897 年設立の京都国立博物館以来、108 年振りとなる。

韓国や中国の博物館などとも協定を結び、アジアの交流拠点としての役割も担っている。

日本の国立博物館の中では最大の大きさ（地上 5 階、地下 2 階、敷地面積 160,715 m²、延床面積 30,085 m²）で、来館者は開館から 4 か月目の 2006 年 2 月 19 日に 100 万人を記録。

本県長岡市から出土した縄文（火焰式）土器も展示されている。

2 学校教育との連携事業

教員研修や、九州地域をはじめとする全国の大学の生徒の研修受け入れ、ジュニア学芸員事業（4 校 21 名）など高校との連携事業を実施。

「きゅうぱっく」という学習支援ツールを製作し、貸し出す取組など、学校現場において時間をかけて使用できる教材提供や職場体験などの学校連携事業を実施している。